

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉

27A-27

代表者：代表理事 脇坂 純一

URL : <https://iinenet101.jimdofree.com/>

1. 活動が必要とされた状況

(1) 里山保全及び外来植物の調査・除去活動

狭山丘陵の保全活動は、継続的な取組が必要。外来植物市民調査も継続が重要。

(2) 生物多様性保全の普及啓発活動

環境保全活動を促すためには、継続的で効果的な情報提供と動機づけが求められる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

(1) 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動

- ・ 里山保全活動は、年4回下草刈りなどを実施した。カシノナガキクイムシの被害による枯枝落下のリスクを回避し、当面活動場所を変更している（参加者3~8人）
- ・ 原市沼川の特定外来生物オオフサモの除去活動は、様子を継続的にモニタリングした。（参加者の企業のべ5人）

(2) 生物多様性保全の普及啓発活動

- ・ R6/6/20に「ツキノワグマはなぜ出没したのか！」をテーマに第9回サイエンスカフェをオンラインで開催した。（参加者70人）
- ・ R6/11/8に「アライグマ防除の基本のき」をテーマに第10回サイエンスカフェをオンラインで開催した。（参加者80人）
- ・ R6/9/28に飯能市で、NPO法人Crew-Lの活動（鹿・イノシシ解体施設）と、てんたの会のほとけどじょうの里を見学した。（参加者11人）
- ・ R7/2/15に第11回生きものフォーラムを「ネイチャーポジティブ企業の役割」をテーマにさいたま市で開催した。（参加者71人・オンライン併用）
- ・ R7/2に「外来植物ポケットブック第4版」を発行した。野外植物観察のツールとして、生物多様性の理解の一助にしていきたい。



3. 活動の成果

- ・ 緑の森博物館の里山保全活動に協力ができた。
- ・ シカ肉の食用利用について、知見を広めることができた。
- ・ フォーラムでは企業の役割について知見を深めることができた。
- ・ 「外来植物ポケットブック第4版」を発行し、広く配布できた。

4. 今後に残された課題

- ・ ナラ枯れ病の蔓延の中で安全を確保しつつ持続的な里山保全活動を続けていくこと。効果的な勧誘により新たな里山保全活動の参加者を確保すること。
- ・ 当団体の役割である多角的な情報発信とコーディネート役を進めるため、自らの活動の強化（実践・研究・モニタリングの深化、活動分野の多角化など）を図ること。